

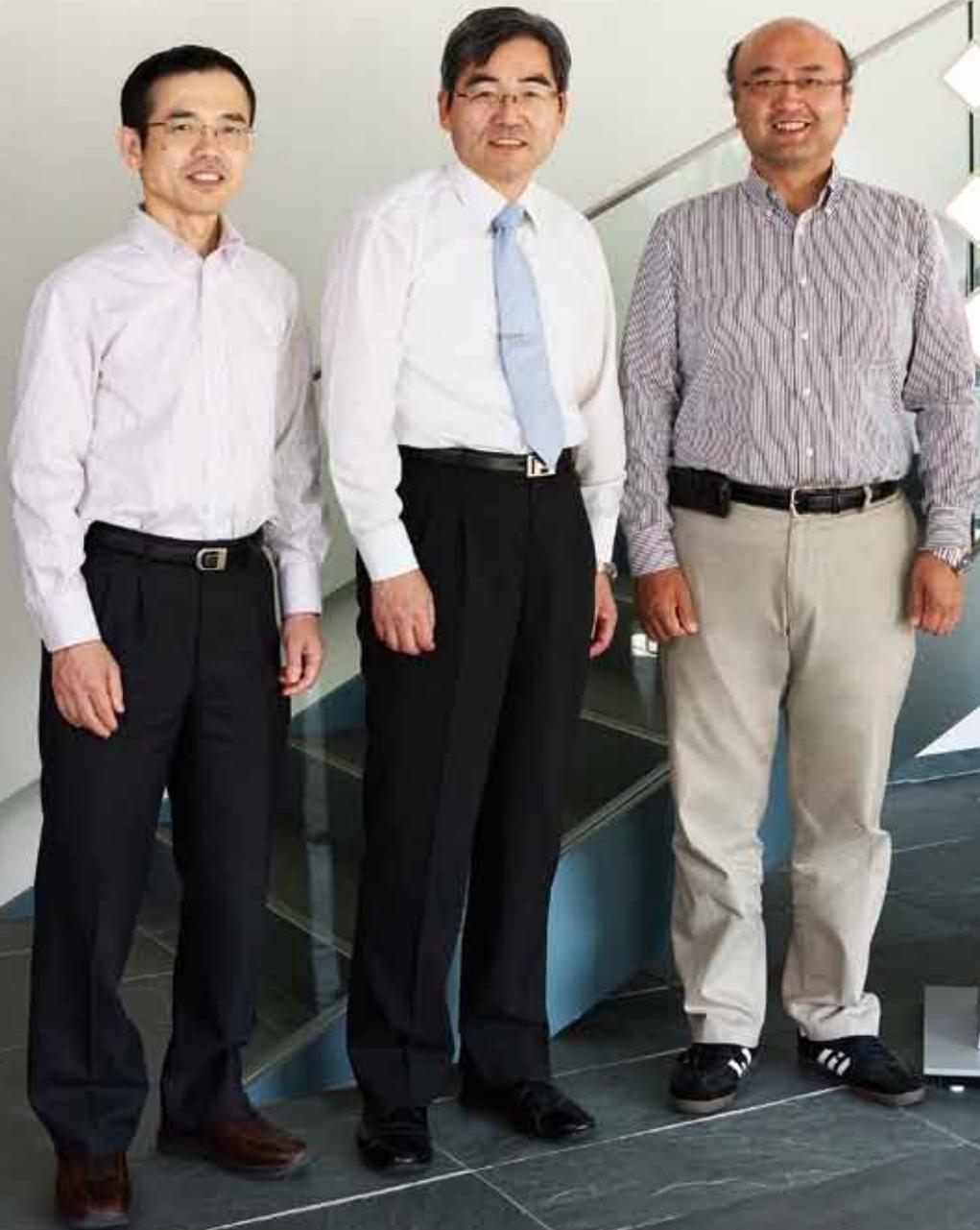
みどり樹

特集

有機エレクトロニクスで世界へ。
ノーベル賞級の教授陣が米沢に集結し、
“ドリームチーム”始動。

研究室訪問 / 理学部

地下の構造を解明することは、
地震を予知する上でも不可欠。
暮らしに関わる研究でもある。





特集

有機エレクトロニクスで世界へ。 ノーベル賞級の教授陣が 米沢に集結し、 “ドリームチーム”始動。

昨年、創立100周年を迎えた工学部では、有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの3部門を柱とする「有機エレクトロニクス研究センター」を設立。ノーベル賞級の卓越研究教授によるドリームチームを中心に、新進気鋭の研究者も加わり、日本を、世界をリードする先端研究拠点として4月1日にスタートを切った。震災・原発ではさまざまなカタチで影響を受けたものの、社会全体に節電・省エネ・エコ意識が広まったことで有機エレクトロニクスに対する期待と関心も高まっている。今後は、3部門の相乗効果により技術開発を加速させ、産業界や地域社会への還元をめざす。



有機EL

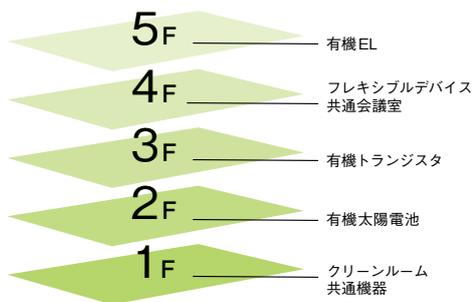
有機
エレクトロニクス
分野



有機太陽電池



有機トランジスタ



有機エレクトロニクス 研究センターのロゴマーク

Research Center for Organic Electronics
の略語。「O」の文字は有機化合物構造式の
基本となる六角形をモチーフにデザイン。
「明るい、暖かい、健康的」をイメージさせ
るオレンジ色を使用。

米沢発の有機ELから 有機エレクトロニクスへ

有機ELの第一人者として知られる城戸教授が白色有機ELの開発に成功して以来、有機EL研究の聖地として注目を集めるようになっていった米沢市。今後は有機エレクトロニクス研究の先端拠点として国内外にその名を知らしめることになりそうだ。工学部では、かねてより有機デバイス工学専攻を設置する等有機エレクトロニクスに関する教育研究の重点化を進めていたが、平成21年度地域卓越研究者戦略的集結プログラム(科学技術振興機構)の採択を受けてその取り組みは一気に加速する。工学部創立100周年のタイミングで米沢キャンパスに「有機エレクトロニクス研究センター」を開設。有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの主要3部門からなる有機エレクトロニクス分野全体をカバーする国際的研究拠点の形成に向けて動き出した。

城戸教授の有機EL研究をコアテクノロジーとして、有機太陽電池分野には世界的



高橋辰宏

たかはしたつひる ●山形大学有機エレクトロニクス研究センター教授／専門は高分子材料物性物理学。早稲田大学で修士課程、山形大学で博士課程修了。有機太陽電池研究部門のメンバーで企画・運営担当の副センター長。

第一人者であるニアジ・セルダー・サリチフチ氏が、有機トランジスタ分野にはフレキシブルディスプレイ研究の第一人者である時任静士氏が、それぞれ特別連携卓越研究教授、卓越研究教授に就任。有機エレクトロニクス・ドリームチームの3名が各部門のリーダーとなり、一緒に研究開発に取り組んでいく。

研究は、発見・発明、しっかり見て議論することは非常に意義のあることで、研究

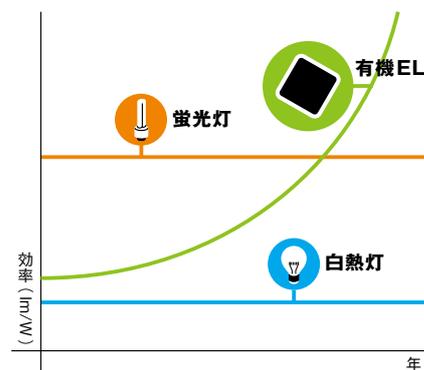
者同士の物理的距離が縮まると研究成果に相乗効果が期待できるという。名だたる研究者たちが「有機エレクトロニクス研究センター」という同じ建物の中で密接に連携して研究を行うことによる相乗効果は計り知れない。

有機EL部門の次なる照準 大型フレキシブルTV

次世代照明・ディスプレイ用光源として多くの注目を集めている有機EL。白色有機ELの開発者・城戸教授が率いる有機EL部門では、有機EL照明の実用化に向けていかに効率を高めて消費電力を抑え、長寿命化させるかが課題となっている。そのた

めの新しい材料の開発や量産体制を整えるための新しい製造プロセス・基盤技術の確立に力を注いでいく。

一方、ディスプレイについては、近年のテレビの大型化を受けて消費電力の大きいプラズマや液晶から消費電力が半分以下で済む有機ELの普及が待たれる。また、ディスプレイのフレキシブル化には有機トランジスタとの組み合わせが不可欠となるため、時任教授率いる有機トランジスタ部門との連携は非常に心強い。この好環境を生かして最終的には、世界初の大規模フレキシブルテレビをここ米沢の地から世界に送り出したい考えだ。有機エレクトロニクス研究



電力効率の比較

電力効率を他の照明器具と比べてみると、白熱灯より高い電力効率を示し、省エネ化によってCO₂削減にも有効。



5F 有機EL部門

有機EL研究部門のフロア。有機ELの効率を上げる、寿命を延ばすといった目的に向かって日々さまざまな実験や解析が行われている。



2F 有機太陽電池部門

有機太陽電池研究部門デバイスのフロア。従来のシリコン太陽電池よりも製法が簡便で低コストが魅力の有機太陽電池、その実用化に取り組む。

センターは建物と同時に設備・装置等も充実、装置メーカーとともに開発した、世界でここにはない特殊装置や新型装置も少なくない。そして、それらの装置を使いこなせる人材も充実している。同センターの開設により有機EL研究の次なる構想もにわかに現実味を帯びてきたようだ。

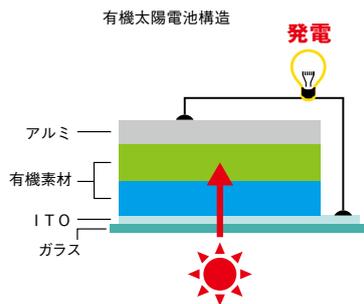
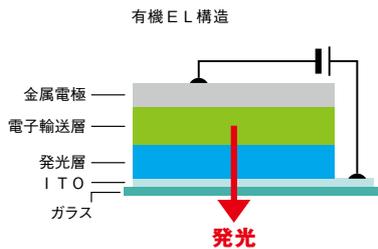
国際色豊かな布陣で競争力 有機太陽電池チーム

電気を光に変える有機ELとは逆に、光を受け取って電気にする技術。それが有機太陽電池。有機太陽電池部門は、サリチフチ特別連携卓越研究教授を筆頭に、実績のある教授陣から新進気鋭の研究スタッフまで国際色豊かなチーム編成となっている。ニアジ・セルダー・サリチフチ教授は、名実ともに有機太陽電池産業を牽引してきた第一人者。そのサリチフチ教授をリーダーに、従来のシリコン太陽電池と比べて製法が簡便で生産コストが低く、応用範囲も広い有機太陽電池の開発に努める。さらに、電源の供給だけではなく、デザイン性が高いた



城戸淳二

きどじゅんじ ●山形大学有機エレクトロニクス研究センター卓越研究教授／専門は有機デバイス工学。1989年山形大学に着任。1993年世界で初めて白色有機ELの開発に成功。有機EL研究部門リーダー、副センター長。



有機ELと有機太陽電池の関係性

有機ELが有機材料を電気力で発光させているのに対して、有機太陽電池は逆に、光エネルギーを電力に変換するもので、光吸収層に有機化合物を使用。

め、建物及び車の内装・外装としても利用可能なフレキシブル有機太陽電池にも取り組んでいく。また、生産性の良いロール・トゥール方式で大面積・高効率有機太陽電池の開発を目指す。

電力不足が懸念される昨今、循環型の自然エネルギーに活路を求める傾向が強まっている。太陽電池への関心は自ずと高まっ

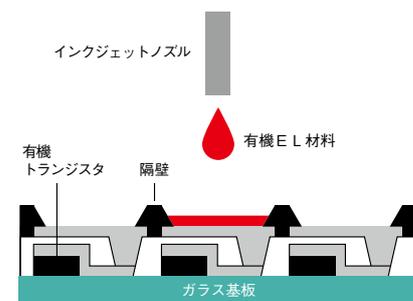
ているが、これを機に次世代の太陽電池として有機太陽電池の有効性を広くアピールし、実用化へ、普及へと拍車をかけたい。

企業との共同研究も盛ん、 有機トランジスタの応用力

有機トランジスタ部門のリーダー・時任教授はNHK放送技術研究所で長年にわたって有機ELディスプレイの研究に力を入れてきた人物。その実現のためにはフレキシブルトランジスタの開発が不可欠と考え、有機エレクトロニクス研究センターにおいて有機トランジスタに特化した研究に取り組むこととなった。設備・装置も含めて環境が整っている同センターで、まだまだ実用化していない有機トランジスタを、今後ずっと安心して使えるようにするため、基礎をきちんと研究したいと真摯に取り組んでいる。

有機トランジスタは、薄くて軽くて持ち運び自在で、ディスプレイやセンサー、アクチュエーター等に利用できる。しかも、低温かつ印刷法で作製可能という点が魅力の次世代のトランジスタ。もちろん省エネであり、製造エネルギーも究極の省カタイプ。従来の無機系トランジスタと違って低温かつ簡便な印刷により、必要な部分に作製できるため、廃液や廃材をほとんど出さず、地球環境にもやさしい。今後は、有機トランジスタの高性能化を目指した有機半導体材料開発や動作メカニズム解明を進めるとともに、デジタル・アナログ回路双方の集積回路の実現に向けた研究に取り組んでいく。特に、プラスチックフィルム等の柔軟な基板上に有機トランジスタと有機ELを集積化したフレキシブルディスプレイは、代表的な応用例としてその基盤技術の構築を目指す。

新しい技術、新しい電子デバイスの研究



有機トランジスタ印刷法

有機物の特長を活かして溶媒に溶かし、インクジェット印刷技術で基板上に有機トランジスタと有機ELを作製。有機ELディスプレイ等への応用が期待される。

開発ということで企業からの共同研究の申し出も多く、関連産業の集積にも寄与していくことになる。

国内ニーズの高まりと 海外の研究者の追随

「有機エレクトロニクス研究センター」が完成し、設備や装置の搬入、引っ越しの際に東日本大震災が発生した。幸いにして直接的な被害は免れたものの、記念式典の延期や外国人スタッフに欠員ができる等、少なからず影響を受けた。そんな中、節電



シャーレの中にかすかに見えているのが印刷法でのトランジスタの試作品。小さく「Tokito Lab」と書かれている。

を心掛けながら引っ越しを再開し、4月にはスタートすることができた。今回の震災を機に節電・省エネ・エコに対する人々の意識が強まり、予期せぬカタチで有機エレクトロニクスへの期待が高まっている。有機トランジスタは上手に節電するためのセン



時任 静士

ときとうし 静士 ●山形大学有機エレクトロニクス研究センター卓越研究教授／専門はフレキシブル有機エレクトロニクス。九州大学で博士課程修了。2010年山形大学着任。有機トランジスタ研究部門リーダー、副センター長。

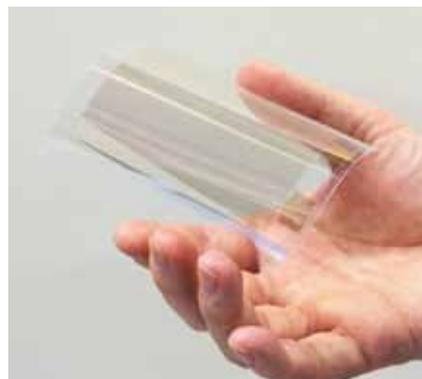
サーに有機太陽電池は脱原発による電力不足をカバーするための創エネに、有機ELは大型テレビの消費電力を抑えるために…、環境への配慮もあって有機エレクトロニクスの活躍の場はますます増えていくに違いない。

有機エレクトロニクス研究において、本学は世界のトップランナーと言える。しかし、ドイツのドレスデン工科大学をはじめ他国の研究者も猛追してきている。このままトップを走り続けるためには研究・開発の勢いをもっともっと加速させていかなければならない。「有機エレクトロニクス研究センター」の開設は、そのいいき

かけになったようだが、単に施設や装置が充実しているだけでは研究や産業化は進まない。発見や発明は一人の卓越した研究者がいれば可能だが、それを産業化・実用化にまで押し上げるためには、しっかりとした態勢および層の厚い人材が欠かせない。世界の競争に勝ち抜くための人材育成は「有機エレクトロニクス研究センター」の重要な使命の一つである。

学会や国際会議も経験、 即戦力となる研究者を育成

「有機エレクトロニクス研究センター」における教育、人材育成の方針は“実践で学べ”。各分野の権威が率い、海外から、企業から集まっている新進気鋭の研究者も多い同センター内では、ごく普通に英語や中国語が飛び交う。大学に居ながらにして世



有機薄膜トランジスタが微細に集積されたプラスチックフィルム。

研究者を招いた際も学生と接する機会をできるだけ多く設けるなどの配慮もある。こうしたさまざまな経験を積むことで、卒業後は国際的にも通用する即戦力となる、実践的な研究者を育成している。

「有機エレクトロニクス研究センター」を



3F 有機トランジスタ部門

有機トランジスタ研究部門のフロア。有機EL研究部門との連携によるフレキシブルディスプレイの開発を中心に有機トランジスタの可能性を追求。

界に関わり、産業界にも触れることができるのだ。学生にも学会や国際会議への参加のチャンスが与えられる。世界でも最先端レベルの研究をしているということで注目度も高く、自分が取り組んでいる研究が世界的にはどんなポジションにあるのかを実感することができる。また、逆に海外から

拠点に国際的なネットワークをますます充実させ、米沢ひいては山形を有機パワーで輝かせたい。さらには、同センターでの基礎研究から新たな産業を育てることにより、東北復興の一助になればとの思いも手伝って、研究者たちはより意欲を燃やしている。

人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

「学士課程教育における質保証」の問題をめぐる講演会と勉強会を開催！



2月22日(火)に人文学部において、日本学術会議 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員でもある広田照幸先生(日本大学文理学部教授)を講師に迎え、「学士課程教育における質保証」の問題をめぐる講演会と勉強会を開催しました。

本講演及び勉強会は、人文学部教育方法検討部会が、平成20年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の再構築に向けて」を受けて、大学教育の分野別質保証のあり方を検討する上での基礎知識の向上を目指し、「学

士課程教育における質保証」の問題について講演いただくとともに、講師を囲んでの意見交換やカリキュラムポリシー構築のための情報交換などを目的として企画したものです。

当日は、約40名の教職員が参加のもと、第1部の講演では、広田先生から「分野別参照基準の検討状況とその意味」と題して、大学教育の分野別質保証のあり方についての講演をしていただきました。その後、休憩はさみ、後半は質疑応答・勉強会が行われ充実したひと時となりました。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

学生ボランティア — 災害後に若い力を —



東日本大震災後に避難所となっている落合スポーツセンターにおいて、配膳ボランティアとして、食環境デザインコースと造形芸術コースの学生達が、夕食の配膳並びに物資の仕分け作業を行いました。最初は何をしたらよいかかわからないといった学生が、この活動を通して、直接避難所での問題を耳にし現状を知ることで、自分が何をすべきか、そして人間として第一優先にしなければならない事とは何かを考え行動しています。災害後は若い力を必要とします

が、参加学生からは「何かしたいが何をすべきかわからず、声をかけてもらったことでコミュニケーションがとることができ、お互い何が必要かを知ることができた。」「必要とされていることを実感した。これからはボランティア活動を続けたい。」との感想が寄せられました。

理学部

Faculty of Science

『んだ！「はやぶさ」見に行がんね』プロジェクト



このプロジェクトは、小惑星探査機「はやぶさ」地球帰還カプセル展示会(主催は山形市教育委員会)を有意義なものにするために作られたプロジェクトです。小惑星の砂を採取して地球に帰還するという非常に挑戦的な課題を成功させた「はやぶさ」ですが、途中、宇宙で行方不明になる困難を乗り越えての帰還が話題を呼びました。普通の展示会では、ただ帰還カプセルをちらっと見て終わり、理解にはなかなかいたらないところですが、山形大学内にある「や

まがた天文台」で星空案内をしている星のソムリエさんが、展示物のフル解説を4日間ぶっ通しに実施するという快挙を成し遂げました。参加者からはこんなに分かりやすい展示会は初めてという感激の言葉をたくさんいただきました。



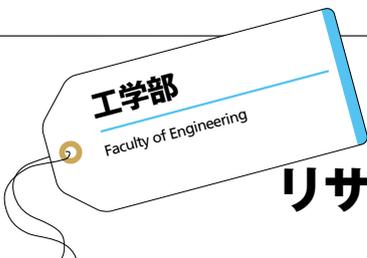
はやぶさの中にあつたカプセル
提供:JAXA



「ふれあい看護体験」を実施しました

5月12日(木)はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」と制定されています。患者とのふれあいを通して看護に理解と関心を深めてもらおうと、全国的に看護週間を展開しており、当院でも県内の高校生11名を招いて「ふれあい看護体験」を実施しました。当日、参加者達はさっそく看護師のユニホームに着替え、はじめに久保田病院長、大谷看護部長からの挨拶があり、その後、各病棟に分かれて実際に入院患者様を相手に看護体験を行いました。初めての手足

浴に苦戦し、車いす誘導では慣れない手つきで戸惑いながらも、皆、真剣な表情で取り組んでいるのが印象的でした。病棟ではスタッフ達の明るい笑顔に励まされ、患者さんからの「ありがとう」の言葉に感動し、憧れの看護という職業をより身近に感じた学生も多く、充実した1日となりました。医療の現場を体験し、患者さんと触れ合うことで命の尊さや助け合い、そして感謝の心を実感することができたのではないかと思います。心なしか背中に小さな翼が見えたような気がしました。



東日本大震災の被災者の方々に リサイクル家電・家具の無償提供を行いました

東日本大震災の発生を受け、3月18日(金)に学生有志による山形大学工学部卒業生・被災者支援チームを立ち上げ、卒業生・修了生の引越しを支援し、米沢市に避難していた被災者に家電・家具等を無償で提供しました。

30人以上のボランティアから組織されたチームは、述べ213人の卒業生の引越しを支援しました。被災した当時、ガソリンの供給不足等で引越しができず家財の運搬や品物の処分に困っていた学生が多くいたため、近隣の小中学校や高校からもリヤカーを借り、工

学部体育館に家財を集めました。

集められたTV、冷蔵庫、洗濯機、机、棚等の家電・家具等は、米沢市に避難していた被災者の方々に無償で提供されました。予想以上のニーズがあったため、地元メディアで一般市民からも品物の提供を募り、約1,150点の品物を約110世帯の方々に提供することができました。利用した被災者の方からは、「本当に山形、米沢方には感謝します。学生の方もとても親切で助かりました」等の感謝の声が多く寄せられました。



被災地に対して積極的な学生ボランティアを展開

農学部では、「走れ!!わぁ(私)のチャリ」や「ふれあい体験」など、学生が主体的に行うボランティア活動を展開しています。

走れ!!わぁ(私)のチャリは、被災地でのボランティア活動のほか、空いた時間を利用して提供を受けた自転車を整備し被災地へ届ける活動を行っています。既に申し出があった塩竈市や石巻市の避難所に計37台の自転車を届けました。その活動は、新聞などにも取り上げられ、県内各地から不用自転車を提供したいとの申し出が多数寄せ

られました。

また、ふれあい体験は、避難所へ雌ヤギと子ヤギを持ち込み「乳しぼり体験」や「えさやり体験」など、子どもたちの心のケアを目的に農学部ならではの企画として、5月5日(木)こどもの日に福島市あずま総合運動公園で約80人、5月21日(土)には山形市総合スポーツセンターで約58人の子どもたちと交流を行いました。

被災地と交流を行う学生の目は光輝いており、今後の活動展開にご期待ください。



地下構造のさらなる解明と 活断層や地殻変動の研究が2本柱

一口に地震学といってもその研究分野はさまざま、長谷見先生は地震波の到着時刻や振幅等のデータによる地下の構造の解明を専門としている。緊急地震速報の普及により知られるようになったP波・S波のS波に着目し、それが吸収されてしまう場所を見つけることによって、火山の状態を把握し、さらに詳しい地下構造の分析に結びつけている。これらは長谷見先生が東京大学の大学院生時代から取り組んでいる研究で、30年以上にわたって地道に調査・分析を行っている。当時、研究を続ける場所として山形を選んだのは偶然に過ぎない



長谷見晶子

はせみあきこ ●理学部地球環境学科教授 / 専門は地震学。東京大学・理学系研究科博士課程修了後、本学に着任。以来、30年以上にわたって地下構造の研究および地殻変動に関する研究に取り組んでいる。

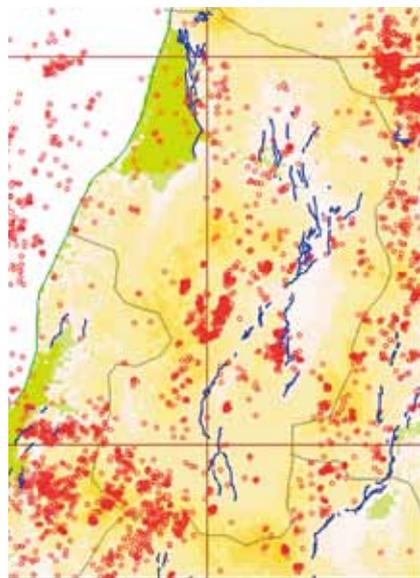
が、浅い地震から深い地震までさまざまな事象が見られる東北地方は研究にはうってつけの場所だったと今は感じているという。

また、この研究室におけるもう一つのテーマとなっているのが、山形県内および東北地方の活断層や地殻変動に関する調査・分析。学生の多くがそれらを研究テーマとしてあげていることもあり、活断層付近の震源分布については学生、院生が野外での観測やデータの解析にあたり、地下深部での活断層の情報収集にも熱心に取り組んでいる。

インターネットやGPS活用で 豊富なデータ分析の担い手に

かつては調査したデータや情報を研究者間で提供し合うことは時間もかかり、研究もなかなか進まない状況にあった。ところが、インターネットの活用が進み、研究環境は劇的に向上している。最近では多くの公的研究機関が地震波形やGPS観測データを公開するようになっており、データの

入手が非常に容易になっている。一方で、情報は豊富にあるものの、それらを分析できる人材が限られているという側面も見えてきた。長谷見先生の研究室では、それら



山形県の活断層と2004～2008年に発生した浅発地震の分布図。青線で描かれているのが活断層。この周辺のひずみがどんな状態かに注目していく必要がある。

地下の構造を解明することは、 地震を予知する上でも不可欠。 暮らしに関わる研究でもある。

長谷見晶子 理学部 地球環境学科 教授

未曾有の大災害となった東日本大震災後、人々は地震に対する関心や警戒心を強めている。今後の余震は？誘発地震は？それらを予測する上で地下構造の解明は欠かせない。同程度の地震が起こったとしても地下の構造がどうなっているかによって受ける影響が異なるからだ。本学理学部教授の長谷見先生は、地震学の中でも地震波の記録を使った地下構造の解明が専門。さらに、近年ではGPS観測による東北地方の地殻変動の研究にも取り組んでいる。その研究室を訪れ、今、もっとも気になる活断層や地殻変動等について話を聞いてみた。



理学部の屋上に設置されている GPS 観測装置。山形、上山、天童、尾花沢など県内十数カ所に設けられている観測点との距離を日々データ化し、年間でどれくらいの地殻変動が見られるかの調査・分析を行っている。

豊富に提供されているデータをインターネットでダウンロードし、研究に活用することでデータの分析を担い、公的機関へのフィードバック等も行っている。

また、地殻変動の調査を目的に理学部の屋上にはGPS観測装置を設置。今年からは尾花沢、東根、寒河江も加わり、県内十数カ所に設けられた観測点との距離を日々調査・分析しており、1年間でmm単位の地面の圧縮が観測されている。これらのデー

タを東北大学と共有し、共同研究を行っている。

東日本大震災後に予想される 県内の活断層への影響とは

「山形は地震のない、穏やかでいいところ」長谷見先生もそんな安心感を持って本学に着任したのだったが、16年前に起きた阪神・淡路大震災を機に活断層と地震の関係に注目が集まるようになり、山形にもいくつかの活断層が存在する事が明らかになった。それ以来、「次は山形…」そんな不安と覚悟を抱えるようになっていた中で東日本大震災は起こった。幸いにして、山形県は大きな被害を免れることができたが、マグニチュード9.0という巨大地震の場合、余震や誘発地震への警戒は数ヶ月、年単位で考えなければならないという。

地震学は、物理学的学問であると同時に経験的学問であり、地震後に何が起こるかを予測する上では、これまでの経験が判断基準となる。明治三陸地震では、本震の2

カ月半後に秋田県の内陸部で大きな地震が起こったという記録もある。長谷見研究室では、今回の大地震が県内の活断層にどのような影響を与えているかを調査・分析し続けることにより、活断層の地震発生予測等の役に立っていきたいと考えている。一説では、今回の大地震により県内の活断層のひずみややや緩和されたのではないかとの見方もあるが、楽観はできない。とは言うものの心配しすぎるのも身体によくない。心静かに地球の変化を見守り、エコロジカルな生活を心掛けたらしよう。



屋上の観測装置から送られてくるデータや公的研究機関が公開している地震波形等のデータについて学生や院生と共に分析し、解説する長谷見先生。



学生や院生、他大学とも連携、
東北地方の地下や地殻について
日々、積み重ねられる調査・研究。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 山形放送のテレビスタジオ、夕方の人気番組のセットをバックに。技術畑の社長の下で地上デジタル放送への移行に向け、機材の導入等も速やかに行われた。



2



3

2 勉強、アルバイト、バンド活動と忙しいながらも剣道にも精進した学生時代。東北地区剣道大会で優勝した際の記念写真。後列の右から5人目が園部さん。

3 園部さんの原点は、やはり技術系。大学では工学部の電気工学科を専攻。そこで学んだ知識や技術、理論的思考がテレビ局の現場においても十分に生かされた。

技術がわかることが強味になる、自信になる。 有言実行で放送局の代表という新境地で輝く。

園部 稔 山形放送株式会社 代表取締役社長

「下宿代は家庭教師、飲み代はバンドで稼いでいましたね」と米沢で過ごした学生時代を懐かしく振り返るのは、山形放送の園部稔社長。子どもの頃から理科系が好きで、鉱石ラジオを自分で作るなどしていたという園部さんは、ごく自然に進学先として工学部を選んだ。学生時代は、学業もさることながら、バンド活動や剣道等多方面で活躍し、青春を謳歌した。ちょうどその頃、テレビの映像はモノクロからカラーへ。放送技術の進歩がめざましいことに注目し、これは面白い分野だと考えテレビ局への入社を決めた。

ずっと技術スタッフとして働いていたが、入社13年目にして突如、東京支社営業部への転勤を命じられた。当初は不安や不満でいっぱいだったが、持ち前の進取の気質と

大学時代に磨きかけた社交性によって次第に新しい職場に溶け込んだ。東京支社時代にさまざまな人脈を築くことができたからこそ、社長という道が開けたのだらうと分析する。東京支社に勤務して4年経った頃、システムのコンピュータ化に伴い、営業も技術もわかる人材が必要との要請を受けて本社に戻り、技術系営業マンとしての本領を發揮。その後は、制作、編成、総務等さまざまな部署を経験し、現在に至っている。

工学部出身者が放送局の社長を務めているケースは希だというのが、園部さんは「技術がわかることの強味」を強調する。確かに、システムのコンピュータ化の時しかり、そして、地上デジタル放送への移行に取り組まなければならなかった近年の状況しかり、園部さんは技術人としてのキャリアを

生かしてその時々をリード。技術がわかることの強味を実証してきた。同じく工学部に学ぶ後輩諸君に向けては「自信を持って自分の思っていることをどんどん発言して欲しい。たとえそれが失敗したとしても、やって失敗したことは決してマイナス評価にはならない。何も言わない、何もやらないのが一番よくない」とアドバイス。さらに、自らの座右の銘とも言える好きな言葉として、鬼一法眼の「送去者、迎來者、和対者。一九の十、二八の十、五五の十。細入微塵、大絶方処、活殺自在」を紹介してくれた。少々長く難解な言葉ではあるが、これを読み解くことで大先輩からのより深いメッセージを受け取ることができる。迷った時、悩んだ時、ひとつの指針となってくれることだろう。

有言の成果

今回のランナー:



國部 稔

そのべみのる●山形県出身、昭和40年工学部卒業。技術人として山形放送に入社。営業、総務、制作、編成等を経て、現在は代表取締役社長。山形交響楽団や山新放送愛の事業団の理事長を務める等多方面で活躍。



長尾直樹

ながなおき●人文学部3年、北海道出身。昨年の学園祭「八峰祭」に引き続き、新入生歓迎フェスティバルでも実行委員長を務める。全体を仕切り、なおかつ花笠サークル四面楚歌のメンバーとして花笠踊りも披露。

震災の影響で開催も危ぶまれた“新歓フェス” 無事開催に安堵、盛り上がりで充実感。

長尾直樹 人文学部 人間文化学科3年

去る4月23日、小白川キャンパスにて新入生歓迎フェスティバル、通称“新歓フェス”が開催された。その実行委員長として全体の企画・運営を取り仕切ったのが人文学部3年の長尾直樹さん。昨年の学園祭「第44回八峰祭」で実行委員長を務めた経験もあり、昨年12月半ば頃から準備はスムーズに動き出していた。ところが、3月11日に東日本大震災が発生したことで想定外の対応を余儀なくされることとなる。被災した学生も少なくなく、入学式が中止されるほどの非常事態。まず、“新歓フェス”の開催自体が危ぶまれた。それでも、開催を願って準備は進めることにした。とは言っても、実行委員の中にも被災した者がおり、仙台在住だった長尾さん自身もライフラインの寸断等で少なからず影響を受けて

いた。そのため、メンバーが集まることもままならず、3月中は何も手を付けられない状態だった。

当初予定されていた4月11日の開催は延期されたものの、23日の開催が決まっただけから急ピッチで準備のラストスパート。震災の影響で使用予定の備品が壊れて処分されてしまう等のトラブルはあったものの、実行委員会メンバーで知恵を出し合い、大学職員の協力を得ながら“新歓フェス”当日を迎えた。部活・サークル・愛好会による屋台や展示、ステージ発表、そして、実行委員会主催の恒例「ミス・ミスターサークルコンテスト」や初企画の「歌うま決定戦」等が繰り広げられ、徐々に華やかな雰囲気にも包まれた小白川キャンパス。周囲の自粛ムードも緩和された。こんな時だからこそ新

入生を歓迎する気持ちは最大限に表現したいの思いもあって、規模としても盛り上がりとしても例年に遜色のない明るく活気に満ちた“新歓フェス”となった。

「八峰祭」や「新入生歓迎フェスティバル」は、大学内のイベントではあっても、協賛社を募ったり、業者との交渉にあたりと外部との折衝ごとも付きもの。絶好の社会勉強と捉えることもできる。長尾さんは、「大学を挙げてのこんな大規模なイベントの運営に携わることができたこと、メンバーとともに成功に導けたことは大きな自信。今後の自分に大いにプラスになったと思う」と手応えを語った。アクシデントに見舞われた“新歓フェス”ただだけに長尾さんの経験値もかなり上がったのではないだろうか。

結集の成果



1

1 理学部棟に設置されたステージでは、毎年たくさんの参加団体が発表を行う。新入生に喜んでもらえるよう練習を重ね工夫を凝らし、素晴らしい発表をした。



2

2 80を超える学生団体、三つの企業が参加し個性豊かなブースや展示でキャンパスを彩った。小白川キャンパスは参加団体・新入生で大いに賑わいを見せた。



3

3 開催前に長尾さんが「開催が危ぶまれましたが、皆様のご協力もあって無事開催することができました。新入生の皆さんは大いに楽しんでください」と挨拶。



震災復旧プロジェクト 「スマイルトレード10%」始動。

■ 大学間の共同プロジェクトとしてスタートした、復興支援キャンペーン

『スマイルトレード10%』キャンペーンは、3月11日の東北大震災の復興支援を目的として山形大学と東北芸術工科大学の教職員及び学生の有志が始めた活動です。コンセプトはとてもシンプルで、日常生活の中のリソース(時間やアイデア、気持ちや資金)を持ち寄って、復興支援活動することを理念としています。多くの人が震災以降、「自分にできることがあれば支援したい」と感じたはずです。その問いかけに応じて、みんなの思いを活動に変換する機会を作っていく活動をしています。

「スマイルトレード10%」の活動自体も、文字通り多くの教職員と学生の10%の協力に支えられています。学生と教職員も無理なく長く続けられるよう自らのリソースの10%をやり繰りしてボランティア活動を実施しています。

現在では、東京にも活動拠点として「トウキョウ ベース」を開設し活動も広がっています。これからは、山形大学の総合力を生かした復興支援策の立案/実行や山大OBとの連携など、大学のリソースを活かして山形大学ならではの活動を実施していく予定です。

■ 学生が主体となって運営する「スマイルエンジン山形」

大学の教職員と学生が中心となった復興支援活動は、山形県だけでなく被災地を含めた多くの地域から注目されています。中でも大きく期待されているのが、学生が主体となって運営する「スマイルエンジン山形」です。5月から毎週土曜日に石巻などの宮城県沿岸部の被災地へ、学生と教職員そして一般からの参加者を募って日帰りボランティアバスツアーを実施しています。大学が企画して実施しているボランティア活動なので、現地での瓦礫撤去や側溝のヘド口の掃除といった活動の後に、1日を振り返るワークショップも実施しています。一緒にチームとして活動した仲間と感じたことや意見を交換することで、自分自身の体験や考えを深めることができます。参加している学生の意見の中に、大きな成長を発見することも多々あり、新しい世代のリーダーがこの活動を通じて育まれていることを強く実感しています。

継続した支援を長く実施していくことを目標にしていますので、これからも学生と一緒に無理なく長く活動していく仕組みづくりが大事だと考えています。多くの人に支えられた活動が復興支援につながり、その活動を通じて新しいリーダーが育つプロジェクトを運営するというのは、大学の新しい役割であると考えています。



瓦礫撤去作業



作業開始前の準備体操

「安達峰一郎」研究調査団がオランダ・ベルギーを視察

5月9日から5月16日まで結城章夫学長を団長とする「安達峰一郎」研究調査団がルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)、国際司法裁判所(オランダ)を訪問し、さらに学術交流協定校(平成21年4月締結)であるライデン大学(オランダ)を訪問して、いっそうの連携のための交流を行いました。

本学バーチャル研究所である「山形大学都市・地域学研究所」(所長:松尾剛次人文学部教授)は、平成20年10月に「山形の魅力再発見」の一環として、山辺町



安達峰一郎氏について語るウィリー・ヴァンドウワラ氏(ルーヴェン・カトリック大学文学部教授)

出身で常設国際司法裁判所のアジア人最初の裁判長(所長)である安達峰一郎氏に関する研究を始め、以来、継続的に研究を行ってきました。

最初に訪問したルーヴェン・カトリック大学では、安達峰一郎研究に詳しいウィリー・ヴァンドウワラ氏(同大文学部教授)から安達峰一郎氏が名誉博士の称号を与えられた経緯等についてお聞きし、山形大学との共同研究等今後の可能性についても議論しました。

次に訪問したライデン大学では、昨秋



小和田恒氏に安達峰一郎肖像画を贈呈する結城学長

短期留学生として迎えた学生と今秋受入れ予定の短期留学生について、山形での学習・生活状況等について関心を示され、本学とのますますの学術交流・学生交流の推進などを議論しました。

また、訪問団はオランダのハーグにある国際司法裁判所において、小和田恒氏(現国際司法裁判所所長)と会談しました。同氏から裁判所に残る安達峰一郎関係資料等の情報をいただくとともに、所長としてのお考えや世界平和の追求についてお話を聞きました。



ダム・ミエラス ライデン大学副学長(前列中央)を囲んで

学生広報部『山形大学マガジン YUM!』

私たちのサークル「学生広報部」が運営しているウェブサイト『山形大学マガジン YUM!』は、山形大学公式ホームページのトップページからリンクがあるサイトです。

『YUM!』では、山形大学の魅力と大学生生活の楽しさをお伝えするコンテンツを掲載しています。現在、「学生広報部」では、新入部員も無事迎えることができ、最近アクセス数も向上し、絶好調で活動を行っています!

学生が作る YAMAGATA UNIVERSITY MAGAZINE 『YUM!』

<http://www.yamagata-university.jp/>

私達が普段どのように記事を作っている



YUM!のトップページ

かをご紹介します。流れを一緒に追って、記事作成を体験してみましょう!

最初に、机を囲みながら企画を立てます。「友達が『大学のここがちょっと分からないね』と言っていたから、分かりやすくまとめたらいいかも」や「近くに新しいお店ができたから、ここをレポートすれば、みんなが参考にしてくれるかな?」といった様子です。皆さんなら、どんなアイデアを出しますか?

次に、仕事の担当を決めます。アポを取る、取材に行く、写真を撮る、インタビューする、記事を書く、構成を考える…、それぞれの得意な、もしくは好きな分野で仕事ができるように出来る限り調整します。も



今年度「学生広報部」説明会の様子

もちろん、異なる担当間でも意見を交換するなど、柔軟な雰囲気、活動をしています。ここでも、皆さんならどんな仕事をしたいか、ぜひ考えてみてください!

その後は、当初計画したスケジュールに沿って進めます。しかし、全てが上手く行くわけではありません。会場が暗くて写真撮影が難しかったこともありました。お店に入ってみたら想像より値段が高かったことも!そんな問題もありますが、なんとか乗り切ったり迂回したりで進めます。この様子は参加してみないと分かりません。まさかこんな問題が!ということが何度もあります。

最後に、作成した記事をサイトに掲載し、皆さんに見ていただくことになります。「公開する」エンターキーを押す瞬間はちょっと緊張します。このエンターキーの緊張を、ぜひあなたも体験してみませんか?

いかがでしたでしょうか。このような流れで記事が作られ、アップデートされていきます。今後も皆さんのお役に立てるような記事を掲載していますので、ぜひご覧ください!

YAMAGATA UNIV. OPEN CAMPUS 2011

7/29 (金) 飯田キャンパス—医学部

●**医学部 飯田キャンパス(山形市内)**
 医学科/10:00~12:30 (受付/9:30~)
 ※医学科は、体験授業(1日医学生)も開講します。13:30~15:40
 看護学科/14:00~16:30 (受付/13:20~)
 ※看護学科棟の施設見学・演習体験は13:00から参加可能です。

7/30 (土) 小白川キャンパス 人文学部・理学部 地域教育文化学部

小白川キャンパス(山形市内) (受付/9:00~)
 ●**人文学部**/9:30~16:00
 ●**地域教育文化学部**/9:30~16:30
 ●**理学部**/9:30~16:00
 ●**小白川図書館・附属博物館案内ツアー**
 9:30~16:30
 ※工学部・農学部の相談ブースも設置します。
 9:30~16:30

8/5 (金) 米沢キャンパス—工学部

●**工学部 米沢キャンパス(米沢市内)**
 9:30~16:30 (受付/9:00~)
 ※「バイオ化学工学科公開講座」及び「AO入試Ⅱ説明会」を同時開催します。

8/6 (土) 鶴岡キャンパス—農学部

●**農学部 鶴岡キャンパス(鶴岡市内)**
 10:40~16:00 (受付/9:30~)
 ●**来場者特典**
 来場者には山形大学オリジナルグッズをプレゼント! (数に限りがございます。)
 ●**学生食堂体験**
 学生食堂を営業いたしますのでご利用ください。
 ●**無料シャトルバスを運行します**
 各キャンパス“最寄り駅”(山形駅、米沢駅、鶴岡駅)から無料シャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。

小白川C ↔ 山形駅、飯田C ↔ 山形駅、米沢C ↔ 米沢駅、鶴岡C ↔ 鶴岡駅
 ※小白川キャンパス(7/30開催)に自家用車でこられる場合は、構内に駐車スペースがありませんので、「山形県庁駐車場」をご利用ください。山形県庁から小白川キャンパスまでは無料シャトルバスを運行いたします。

●**参加申込みについて**
 事前申込みが必要です。7月上旬頃から事前申込みを開始いたします。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)
 ※事前申込みをいただき、メールマガジン登録をしていただいた方には本学の入試等に関する情報をお送りいたします。

詳しくは山形大学ホームページをご覧ください。
www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html
 携帯サイトへはこちらから→



入学試験

問い合わせ/エンロールメント・マネジメント部
 政策課(入試担当)
 TEL 023-628-4141

学部

医学部

3年次編入学(看護学科)
 出願期間/7月26日(火)~29日(金)
 試験期日/8月29日(月)

工学部

AO入試Ⅰ(フレックスコース)
 出願期間/8月1日(月)~5日(金)
 (第1次選考)
 書類選考のため、選抜期日はありません。
 (第2次選考)
 9月1日(木)~10月7日(金)のうち1日
 ※居住地訪問型面談を行います。

AO入試Ⅱ(昼間コース)
 出願期間/8月9日(火)~17日(水)
 (第1次選考)
 試験期日/8月31日(水)
 (第2次選考)
 試験期日/10月8日(土)

3年次編入学(昼間コース)
 出願期間/7月22日(金)~29日(金)
 試験期日/9月2日(金)

農学部

3年次編入学
 出願期間/5月30日(月)~6月3日(金)
 試験期日/7月2日(土)

大学院

社会文化システム研究科

●**修士課程**
 推薦入試

出願期間/8月22日(月)~25日(木)
 試験期日/9月15日(木)
第1回選抜試験
 出願期間/8月22日(月)~25日(木)
 試験期日/9月16日(金)

医学系研究科

●**博士前期課程、博士後期課程**
看護学専攻
 出願期間/7月26日(火)~29日(金)
 試験期日/8月26日(金)
生命環境医科学専攻
 出願期間/7月26日(火)~29日(金)
 試験期日/8月24日(水)

●博士課程

医学専攻
 出願期間/7月26日(火)~29日(金)
 試験期日/8月24日(水)

理工学研究科(理学系)

●**博士前期課程**
推薦入試
 出願期間/7月1日(金)~4日(月)
 試験期日/7月9日(土)
第1回選抜試験
 出願期間/7月20日(水)~28日(木)
 試験期日/8月22日(月)~23日(火)

平成23年10月入学
 出願期間/7月20日(水)~28日(木)
 試験期日/8月22日(月)~23日(火)

●**博士後期課程**
第1回選抜試験
 出願期間/8月8日(月)~11日(木)
 試験期日/8月26日(金)

平成23年10月入学
 出願期間/8月8日(月)~11日(木)
 試験期日/8月26日(金)

理工学研究科(工学系)

●**博士前期課程**
推薦入試
 出願期間/7月4日(月)~8日(金)

試験期日/7月16日(土)
第1回入試
 出願期間/7月19日(火)~28日(木)
 試験期日/8月22日(月)~23日(火)
平成23年10月入学
 出願期間/7月19日(火)~28日(木)
 試験期日/8月22日(月)~23日(火)

●博士後期課程

第1回入試
 出願期間/8月9日(火)~18日(木)
 試験期日/8月26日(金)
平成23年10月入学
 出願期間/8月9日(火)~18日(木)
 試験期日/8月26日(金)

農学研究科

●**修士課程**
 出願期間/7月25日(月)~29日(金)
 試験期日/9月2日(金)

—以上は、6月8日現在の情報です—

学部・大学院説明会

問い合わせ/エンロールメント・マネジメント部
 政策課(入試担当)
 TEL 023-628-4141

学部

人文学部

編入学説明会
 日時/7月30日(土)
 詳細は人文学部HPで確認してください。

大学院

社会文化システム研究科

日時/7月6日(水) 16:30~
 場所/山形大学人文学部

教育実践研究科

日時/8月27日(土)(予定)

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

山形大学特別プロジェクト

第4回 高校生朗読コンクール

「井上ひさしーいま、言葉を東北の灯に」と題し、東北地方在住の高校生を対象とした朗読コンクールを開催いたします。井上氏の作品や偉大な活動を振り返り、そこに込められた東北地方への思いを明らかにし、そこから東北地方に生きていく私たちの歩みを照らす指針を得たい、そんな思いをもって開催します。

◎予選

応募資格／東北地方在住の高校生。または、東北地方の高校に在学する高校生。高等専門学校生は1年から3年までのみ。

◆予選課題文／井上ひさし「イソップ株式会社」(中公文庫80頁～83頁)。

◆応募締切／7月22日(金)
(郵送の場合は当日消印有効)

◎本選

日時／9月3日(土) 13:30～17:00

会場／シベールアリーナ

(山形市蔵王松ヶ丘2-1-3)

問い合わせ／山形大学渉外部 社会連携・

図書・情報課 図書担当

TEL 023-628-4016

公開講座等

理学部

小さな科学者・体験学習会 光の不思議

日時／7月24日(日) 13:30～15:30

場所／山形県産業科学館

参加費／無料

対象・人数／小学4年生～中学生(20名)
及び保護者

親子で体験! バイオロジー・9

日時／7月31日(日) 13:00～16:00

場所／SCITAセンター

参加費／無料

対象・人数／小学5・6年生、中学生及び
保護者(約20名)

七夕に望遠鏡を作って月を観よう

日時／8月6日(土) 18:00～20:30

場所／山形県産業科学館

参加費／500円

対象・人数／小学4年生～中学生(20名)
及び保護者

問い合わせ先／理学部事務室

TEL 023-628-4505

工学部

科学フェスティバル in よねざわ2011

日時／7月30日(土)・31日(日)

10:00～16:00

場所／工学部(米沢市)

対象／小中学生

参加費／無料

問い合わせ先／科学フェスティバル実行委員会

TEL 0238-26-3002

工学部公開講座

山形からのノーベル賞 ーバイオ化学工学の魅力ー

日時／8月5日(金) 13:00～16:30

場所／工学部百周年記念会館1階(米沢市)

対象／一般市民(中学生以上)50名

参加費／無料

問い合わせ先／工学部事務部広報室

TEL 0238-26-3419

工学部公開講座

高分子ナノテクノロジーの最前線

日時／8月26日(金) 13:30～16:30

場所／東京サテライト(東京都港区)

対象／企業、一般、高校生、関東地区機能高分子OB 70名

参加費／無料

問い合わせ先／工学部事務部広報室

TEL 0238-26-3419

農学部

夏季セミナー

日時／8月7日(日)

場所／農学部(鶴岡市)

対象・募集人員／生物や化学などに興味を
持っている高校生 45人(15人×3コース)

参加費／無料

問い合わせ／農学部事務室(学務担当)

TEL 0235-28-2808

森の学校

日時／7月16日(土)、10月1日(土)、

2月18日(土) 8:45～16:00

場所／山形大学農学部附属やまがたフィールド
科学センター 演習林(鶴岡市上名川)

※集合場所 山形大学農学部正面玄関前
(旧7号線側)及び鶴岡市朝日庁舎前からバ
スにて送迎します。

内容／森の花、実、虫、きのこ、鳥、動物、木の葉、
冬芽等の観察・収集、植林、下刈り作業、炭焼き、
丸太切り、リース作り、積雪観察、かまくら設営、
そり滑り、スノーモビル乗車等の体験型学習

対象／小学校3～6年生 先着30人

(なるべく3回とも参加できること)

参加費／各回 500円(保険料、教材代等)

申込み／7月7日(木)まで

問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)

TEL 0235-24-2278

収穫体験「大学農場へ行こう!」

日時／9月中旬～10月下旬(土・日・祝日を

除く毎日) 9:00～12:00

※天候等での農作物の出来により、
前後する場合があります。

場所／農学部附属やまがたフィールド科学
センター農場(鶴岡市高坂)

対象・募集人員／幼稚園・保育園児等(団体)

1日2団体まで

参加費／収穫物代金ののみいただきます。

その他／詳しい内容は、確定次第農学部HP
に掲載します。

問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)

TEL 0235-24-2278

附属学校

すこやか広場

第2回 親子でべたべた まぜまぜしよう

日時／9月7日(水) 14:30～15:45

場所／附属幼稚園(山形市)

対象・募集人員／2～3歳児 親子50組

参加費／親子1組 200円

問い合わせ／附属幼稚園

TEL 023-641-4446

親子わくわくワークショップ

日時／7月23日(土) 10:00～12:00

場所／附属小学校(山形市)

対象・募集人員／園児、児童、生徒とその保護
者 親子50組(園児・小学生は保護者同伴)

参加費／親子1組500円

問い合わせ／附属小学校

TEL 023-641-4443

親子で楽しむ秋の星座

日時／9月3日(土) 18:30～

場所／附属中学校(山形市)

対象・募集人員／中学生以下の親子 150名

参加費／1家族 500円

問い合わせ／附属中学校

TEL 023-641-4440

式典行事

有機エレクトロニクス研究センター 開所式

日時／9月30日(金)

場所／米沢市

問い合わせ先／有機エレクトロニクス研究
センター

プロジェクト支援室

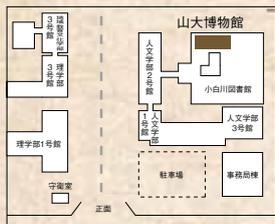
TEL 0238-26-3590

山大博物館

YAMADAI MUSEUM

シリーズ 16

山形大学附属博物館の
収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を
紹介いたします。



図書館及び博物館は学外の方もご利用いただけるように開放しております。利用方法等は図書館カウンターにお申し出ください。知的宝物がいっぱいの図書館・博物館に是非お越しください。

北海道南西部から沖縄まで広く分布するヒラツメガニはワタリガニ科のカニです。ごらんとおとり爪の部分が平たく、漢字で表記すると「平爪蟹」となります。

波打ち際近くに生息するため刺網や底曳網によくかかりますが、日中は砂の中や岩場に隠れてじっとして、夜になるとエビや小魚を補食する夜行性の生き物です。

なんと言ってもこの標本の特徴はニコリ微笑んでいるように見える甲羅の模様ではないでしょうか。もともと捕獲されたばかりのワタリガニは写真の標本より濃い茶色をしています。標本となって40年余、自然に退色し甲羅の凹凸の一部分にのみ色が残ったのです。それが、まん丸な目と微笑んだ口元に見える

のですから「偶然の産物」としか言いようがありません。本館にあるほかのヒラツメガニの標本もそれぞれに退色はしていますが、はっきりとした笑顔が模様となって残っているのはこれだけです。

甲羅の中央部が白く「H」の模様になっているのがわかりますか？これはヒラツメガニの特徴でもあり、このことから「Hガニ」などと呼ぶ地域もあるようです。

本館の小・中学生用のパンフレットでは「チョッキー」という愛称までつけられ、案内役として活躍中ということもあり、訪れる小・中学生に「ニコちゃんガニ」として大人気なのですが、大人からはクセがなくミソがおいしいため味噌汁や鍋物の材料として好まれているのです。
(附属博物館 高橋加津美)



1969年 山形県鶴岡市風ヶ岡(ねずがせき産)
オス サイズ/甲羅部分 タテ5センチ ヨコ6センチ

ヒラツメガニ



山形大学理事・副学長 中島勇喜様には、平成23年5月24日に逝去いたしました。葬儀は、5月28日に中島家と山形大学の合同葬として、しめやかに執り行われました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んで哀悼の意を表します。

編集後記 Editor's Note

千年に一度とされる東日本大震災後、被災を受けた学生・職員または、被災地入りをしてボランティア活動を行ったものと今までに経験したことのない3か月であったと思います。被災地はまだ復旧が進まず、大変な状態ですが、助け合いの精神でここを乗り越えなければならないと感じております。さて、今季号は工学部に新設された「有機エレクトロニクス研究センター」における電子デバイスの開拓と今回の震災の山形県内への影響を調査研究している理学部の「地震活動と地殻変動」にスポットをあてた内容となりました。今季号から「みどり樹」の編集委員となり、改めて山形大学の先生方の研究や卒業生の現在、在学生活動を知ることが出来ました。これからも山形大学の最新情報をお届けしたいと考えていますので、ご愛読いただきたくよろしくお願いいたします。

(みどり樹編集委員会委員 三原法子)

表紙のことば

工学部百周年記念会館に展示されている有機EL照明を前に「有機エレクトロニクス研究センター」の今後について和やかに語る主要メンバー。写真右から城戸淳二卓越研究教授、大場好弘有機エレクトロニクス研究センター長、時任静士卓越研究教授。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹

検索

●「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽に寄せください。
E-mail: kohoo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>